

令和4年度我孫子市水道事業会計 予算編成方針

我孫子市水道局

はじめに

昭和43年に水道水の供給を開始した我孫子市水道局は、令和3年10月1日で事業開始54年目を迎えます。当初は水需要の急増に対処するため、水道施設の新設を行う拡張事業に取り組んできましたが、近年は人口減少などの社会情勢の変化に伴う水需要の減少や水道施設の老朽化への対応が求められるようになり、水道施設の更新を目的とした建設改良事業を中心に推進する必要が出てきました。

また、国は、水道事業者が将来にわたって安全な水を安定的に供給できるよう経営基盤の強化を図るため、平成30年に水道法の大幅な改正を行いました。この動きを踏まえ、本市は平成30年度末に我孫子市水道事業ビジョン（以下、「水道事業ビジョン」という。）を策定し、50年先を見据えた水道事業の将来像を示しました。あわせて、我孫子市水道事業基本計画（以下、「基本計画」という。）を策定し、令和元年度から令和10年度までの水道事業経営の方針と施策、事業計画を具体的に示しました。

現在、我孫子市水道局は水道事業ビジョン及び基本計画に掲げた3つの基本目標（安全、強靱、持続）と6つの基本方針に基づき、計画に沿って施策を実施しています。長期的な水需要の縮小により料金収入の減収が進む一方で、老朽化した水道施設の更新等に多大な資金が必要となるため、厳しい経営状況が続きますが、将来にわたって安全な水道水を安定的に供給できるよう、健全な水道事業運営に努めてまいります。

1. 令和2年度決算の概況及び令和3年度の経営概況と今後の見通し

①令和2年度決算の概況

前述したように、当市の給水区域内では人口の減少や節水型機器の普及等の影響により、平成22年度から令和元年度までの1日平均給水量は、減少もしくは横ばいで推移してきました。しかし令和2年度は給水量が急増して年間では1,304万5,044 m^3 となり、約10年ぶりに1,300万 m^3 に達しました。これは新型コロナウイルス感染症の拡大により市民の生活様式が変化したことが主な要因と推測しています。

この結果、令和2年度の水道事業収益の決算額（税抜）は25億7,925万7,397円（前年度比2.1%増）となりました。一方、水道事業費用は22億4,142万4,526円（前年度比0.3%増）で、水道事業全体の収支では3億3,783万2,871円の黒字を確保しました。ただし、水道事業の根幹を成す営業収支を見るとマイナス（営業損失）となり、令和2年度も引き続き、営業収支の損失を営業外収益で賄う状況となっています。

②令和3年度（4月～8月）の経営概況

令和3年4月から8月までの累計の給水量は、545万5,638 m³でした。前年同時期（令和2年4～8月）と比べ1万873 m³（0.2％）の減でしたが、前々年同時期（令和元年4～8月）よりは19万6,740 m³（3.7％）の増となっており、依然として新型コロナウイルス感染症の影響により給水量が増加している状況がうかがえます。このため、水道事業収益（税抜）の累計額は前年同時期に比べ、約1.2％増加しています。一方、水道事業費用（税抜）は、当初予算ベースで前年度より約1.3％の減としましたが、令和3年8月末時点でほぼ計画とおりに執行されています。

③今後の見通しについて

現時点では新型コロナウイルス感染症の収束時期が見通せないことから、令和3年度の9月以降も当面の間、令和元年度以前に比べて給水量が増加する傾向は続くと予想しています。

しかしながら、この傾向は恒常的なものではなく、本市の水道需要は水道事業ビジョンに示したとおり、長期的には給水人口の減少に伴って縮小していくものと想定されます。その一方で、水道事業費用は、水道施設の更新等による資金需要の増が一層見込まれることから、今後も厳しい経営状況が続くと認識しています。

2. 令和4年度予算編成方針

令和4年度は水道事業ビジョンや基本計画の計画期間4年目にあたるため、引き続きこれらに掲げた取り組みを着実に執行することを事業の基本とします。また、事業執行にあたっては2030年（令和12年）までに達成することが求められている、SDGsを意識して進めます。

具体的に令和4年度に予定している主な取り組みは次ページのとおりです。このうち浄水場や水道管路の整備にかかる建設改良事業では、計画した更新工事について最大限経済合理性を確保しながら執行していきます。なお、建設改良事業に必要な資金の一部は、企業債の借入により賄う予定ですが、対象事業の選定や当該事業における適債性判断等を十分に協議・検討したうえで、所要の費用を見込むこととします。

また、自然災害や水質事故などに即応するための危機管理体制の強化、次世代の水道実務を担う職員の育成など、水道局の組織体制強化に向けた取り組みを引き続き進めます。さらに、水道にかかる新技術導入に向けた調査・研究を進めます。

現状では、水道事業全体の収支では黒字を確保しているものの、水道事業の本体

である営業収支の損失を営業外収益で賄う状況となっています。このため令和4年度の予算編成においては、可能な限り簡素で効率的な経営につながるよう、水道局職員が一人一人高い問題意識を持ち、各事業について、実施の必要性や時代に合った取り組み手法、費用対効果などを十分に精査したうえで、所要額を検討していきます。

【令和4年度の主な取り組み】

水道事業ビジョンや基本計画に掲げた、3つの基本目標及び6つの基本方針に基づき、令和4年度は主に次の取り組みを実施します。

I. 安全

1. 良質な水道の維持

水源から蛇口に至るまでの総合的な水質管理を行うため、「我孫子市水道事業水安全計画」の活用や「我孫子市水道局水質検査計画」に基づく水質検査を行います。また、自己水源（深井戸）の計画的な機能保全を図るため、「取水井維持活用方針」に基づき井戸の浚渫工事および二重ケーシング工事を行います。

II. 強靱

2. 施設強靱性の維持

浄水場整備では、停電時にも水道水を安定的に供給するために妻子原浄水場非常用発電機更新工事を、令和4年度から2か年継続事業として行います。また、水道管路整備では、経年配水管路および基幹管路の耐震化を図るための布設替え工事を行います。

3. 災害対応の強化

県内水道事業体間における各種情報伝達訓練への参画のほか、市民と連携した応急給水訓練を行います。また、災害や水質事故等に即応する危機管理体制強化のため局内職員の事故対応訓練を行います。

III. 持続

4. 事業継続性の確保

基本計画の計画期間（10年）の4年目となるため、事業の進捗状況をふまえて中間の検証を行います。また、水資源の適正運用に向けて、北千葉広域水道企業団からの受水と自己水源（深井戸）の運用コストや災害時等の対応を踏まえた、取・受水管理を引き続き行います。このほか、浄水有効利用のための漏水調査の実施等、

継続的な漏水防止対策に取り組みます。

業務効率化方策では、「浄水場設備運転及び維持管理業務等包括委託」及び「料金・給水・会計業務等包括委託」の着実な実施と官民連携の推進により、引き続きお客様サービス向上と業務効率化に努めます。また、職員の年齢構成が偏らないような配置を目指し、次世代の水道実務を担う人材の育成のため、職責に応じ必要な研修を実施します。

5. 財政健全性の確保

将来にわたり長期間使用する水道施設の整備に要する費用の負担を、世代間で平準化するために、引き続き企業債を活用します。

6. 将来につなげる新施策の考察

水道にかかる新技術について最新知見や先進事業の動向を注視し、導入に向けた調査・研究を進めます。また、SDGsに向けた取り組み推進のため、職員研修を行います。